

2017年度を振り返る

千葉県福祉ふれあいプラザ(ふれプラ)

この4月9日、年1回のふれプラ職員が集まる全体会合を開きました。千葉県高齢者福祉課から2人、共同事業体の代表団体・WACの升田忠昭理事長、構成団体・ACOB Aの木川敏子代表理事を含めて37人が出席し、各部署から前年度の報告と新年度の事業計画を中心に発表を行いました。

その内容を基に、「介護実習センター」をはじめ「介護予防トレーニングセンター」「ふれあいホール」の順に2017年度の事業を報告します。

3年連続で20万人超の利用者

年間の総利用者数は3年連続の20万人以上となり、開設以来の累計利用者数は200万人を超えました。事業収入は、千葉県からの指定管理料と利用料収入を合わせて1億1600万円となりました。利用料収入の7割弱が部屋貸しの「貸し館」によるもので、貸し館は千葉県の予約システムを利用して管理しています。支出は1億1500万円弱でした。その内訳は人件費が7割を占めますが、膨大な数の設備・備品の保守・修繕費が近年増加しています。

年間開館日数308日、午前8時半から午後9時半までを職員約50人で担って

います。職員の半数が国家資格等を持つ専門職です。

「介護実習センター」で認知症予防セミナー

「介護実習センター」の役割は、高齢者福祉のために介護という知識と技術を広く県民に提供することにあります。県民研修で学習の機会を、介護等の各種相談で個別性に合わせた情報提供を、地域の茶の間等で直接的なサービス提供を行っています。

職員数は他部署兼任者を入れて11人。県民研修は年間119回行い、参加者は4549人でした。うち36回は出張し、市町村や地域包括支援センターと連携しています。

市町村や地域包括支援センターの職員対象の介護予防担当者研修では、実技講習を組み込んでいます。実際に指導の場に立つことのない職員にも知ってほしい知識と時代の変化を取り入れています。

千葉県には54の市町村があり、地域性に大きな違いがあります。ふれプラは県の施設ですから市町村支援が課せられています。とは言え、市町村支援は難しい課題ですから、市町村の実情を理解して、



消防署を呼んで、救命講習を行った。



「地域の茶の間」でマジックを披露する職員

市町村の要望を引き出すことができたかと考えています。

地域等との連携で、17年度最大の新事業は国際医療福祉大学成田看護学部からの実習生受け入れでした。年度初めから大学側とミーティングを重ねて実習内容を具体化し、9月から12月にかけて69人の学生を迎えることができました。

大きな啓発イベントとして、8月に「まだ間に合う！今日から始める認知症予防」を行って、参加者は400人を超えました。アンケートの回答者は300人に上り、自由記述に100人以上が感想を寄せ、認知症への熱心な姿勢と切実な願いを知ることになりました。

もう一つは、毎年2000人以上が参加する11月の「千葉県福祉機器展」です。17年度の特徴は、地元の高校生や専門学校が学生がボランティアとして多く入ったこと、国の「認知症介護研究・研修東京センター」の永田久美子・研究部長による講演内容をホームページで発信したことです。

「地域の茶の間」は3種類、月に約5回

開いて年間で500人近くが集いました。

登録者が1000人超の「介護予防トレーニングセンター」

「介護予防トレーニングセンター」は、介護予防が目的の施設です。職員数は20人。5年前に登録者数が1000人を超えてから満員の時間帯が増え、ほどなく年間利用者数が4万人超となりました。

同時に、待ち時間が長くなり、利用者間のトラブルも目立つてきました。マシンの取り合いや口論なども珍しくありません。近年、サービス産業で問題となっている暴言や威圧的態度をとる利用者への対応は簡単ではありません。

利用者との会話は介護予防トレーニングの一環ですから、職員にはコミュニケーション技術の高いスキルが求められます。しかも、複数の利用者に同時に対応するという場面が通常です。このようなスキルは「朝一夕にできるわけではないため、ミーティング等で事例検討して共有しています。」

高齢者の運動において注意すべき点は多々ありますが、運動中の急変を知らせる血圧・心拍数の変動は要注意です。軽い会話をしながらの運動は、オーバートレーニングを防ぐために良いとされています。

会話の中から問診票等ではわからない

重要なサインを引き出すこともできません。認知機能の低下や難聴など、高齢者の特性による伝わりにくさもあります。

個別指導相談を予約制で

今年、利用者からの個人指導の要望にこたえるため、「個別指導相談」を予約制で行いました。年齢や既往症で括れない個人差も高齢者の特性の一つです。体力測定をして個々にトレーニングメニューを提供していますが、実行するためには支援が必要で。

介護保険の「総合事業」に住民主体の介護予防運動教室が位置づけられていますが、グループレッスンで個別性に配慮するには相当な高い運動指導技術が必要で、でなければ効果が少ない、または悪化させる運動となってしまう。

指導方法や良いとされる知識は進化しており、常に提供する情報を変換させることが求められています。

年間利用12万人超の「ふれあいホール」

ふれプラは共同事業体で運営しており、「ふれあいホール」は構成団体である地元のNPO法人ACOBが主体となつて運営しています。

といつても事業は共同事業体運営委員会と協議して千葉県と相談しながら行っているため、WACも関係がないわけではありません。特に、ホールは定員550人に高額の設備を備えるため、安

全管理の責任はとても重くなります。特殊性があるため、公益社団法人全国立文化施設協会に入会して、知識・事故事例などの情報をもらっています。

ホールの主な役割は貸し館です。ホールは文化利用とスポーツ利用の多目的ホールで、ホール横に開放型ギャラリーが設置されています。職員数は14人です。

ホールの利用率は12年間100%、年間利用者は12万人を超えます。災害時は一時滞留施設に指定される施設です。

利用者と一緒に防災訓練

東日本大震災の時、施設のある我孫子市は震度5弱で、地盤の弱いところを中心に約230棟が全半壊しました。

ふれプラでは、ホールで高校生が卒業記念コンサートのリハーサル中でした。観客が不在だったため混乱もなく避難誘導できましたが、天井から小さなビス等がバラバラと落下しました。

防災訓練は年2回、けやきプラザの人居施設全体で行いますが、3月に初めて利用者を入れた自主防災訓練を実施しました。トレーニングセンターの自主事業と合体させて「ハッピースマイル・エクササイズ&ミニ防災訓練」として行いました。利用者を入れた訓練は計画時から細心の注意を払わなくてはならず、訓練時大変

な緊張感を味わいました。

2回のトラブルを教訓に

ホールでは震災以外に大きなトラブルが2回ありました。1回は爆破予告で、この時は全館避難でしたが、時間が設定されていたため計画的に動くことができませんでした。

もう1回は、舞台幕が焦げるばや騒ぎです。照明器具に舞台袖の幕が接触し、公演終了直前に焦げ臭が漂いました。煙も出ず、混乱はなく避難誘導も行わなかったのですが、その後の主催者側との交渉を含めて多くを学ぶ事故でした。

自ら経験した事故等に対処するのは当然ですが、未然に防ぐことの方がよいです。ヒヤリ・ハット集を毎年出していたのは予防のためです。しかし、例年通りとなると緩むもので、そこでヒヤリ・ハット集を

全面改訂しました。良い出来で、有識者による県運営委員会でも賞賛されました。

18年度は指定管理事業の最終年

2006年度から指定管理を始めて、18年度は13年目です。今年度は今期の指定管理の最終年度であり、新しい指定管理の申請年度でもあります。

千葉県福祉ふれあいプラザは公の施設です。公の施設とは、住民の福祉の増進を目的に地方公共団体が設置した施設のことです。指定管理者制度は、その設置目的の遂行において民間の活力を生かしたサービスの向上と経費節減を目的に導入された制度です。

目的と立地する地域の特性を考慮して、より良い運営に向けて努力したいと思っています。

(統括責任者・常務理事／小林里美)

● 2017年度の主な行事・実績一覧

4月	全体会合（ふれプラ職員総会）41人出席 介護予防トレーニングセンター4月期登録258人、 総登録者996人
5月	第1回備品安全管理委員会、緊急伝達訓練
6月	介護予防講習「ピンピンカラリ初歩麻雀」40人で開始（終了3月）
7月	トレーニングセンター7月期登録234人、総登録者1,003人 介護予防イベント「ハッピースマイル・エクササイズ」115人参加 サマーコンサート「大草原の輝き（モンゴル友好）」513人参加
8月	認知症啓発イベント「今日から始める認知症予防」436人参加 保健所定例立ち入り調査・レジオネラ菌等検査、問題なし
9月	国際医療福祉大学成田看護学部学生実習受け入れ開始（終了12月、69人）
10月	平成29年度利用者アンケート実施（登録団体800、登録個人1,003人） トレーニングセンター10月期登録257人、総登録者1,015人 職員研修「普通救命講習Ⅰ」29人出席
11月	千葉県福祉機器展（2日間）2,088人参加
12月	認知症の人の家族の集い&我孫子市地域包括支援センター交流会27人参加
1月	袖ヶ浦市で4市合同県民研修「介護保険制度改正」228人参加 トレーニングセンター1月期登録262人、総登録者1,011人
2月	ヒヤリ・ハット集全面改訂、けやきプラザ防災訓練（避難所設置訓練） 市町村職員対象の介護予防担当者研修、今年度分終了。19市町から82人参加
3月	有識者による千葉県福祉ふれあいプラザ運営委員会介護予防イベント「ハッピースマイル・エクササイズ&ミニ防災訓練」108人参加